

令和2年3月16日

発 言 者	発 言 要 旨
木村委員	<p>休廃止鉱山鉱害防止事業における入札不調の原因は何か。</p>
<p>鉱政・計量主幹</p>	<p>堆積場の遮水に必要となる舗装の補修工事について、6月と7月に入札公告を行ったが、どちらも不調になった。この箇所は、スキー場のそばで降雪時期には工事ができないため、来年度に繰り越して実施したい。</p> <p>不調の原因は、昨年、スキー場のロープウェイが故障し運転が休止になったため、夏山登山者を管理用の道路を使って代替輸送することとなり、同じ道路を使う工事車両の運行に制約が生じ、工程が厳くなったことが原因である。</p> <p>ロープウェイは現在、復旧し、来年度の工事には支障がない状況なので、来年度早めに工事を行い、十分な工期を確保したい。</p>
鈴木委員	<p>I o T関連製品支援施設整備事業の工期延長の要因と今後の見通しはどうか。</p>
<p>産学官連携推進主幹</p>	<p>工事現場から大きなコンテナ二つ分位のコンクリートの塊が出たことにより、工事に支障をきたしたことが原因である。撤去工事に基礎工事を行い、今は建屋の建築工事中である。</p> <p>当初は3月末の完成を目指していたが、埋設物の発見後、関係機関も含めてスケジュール調整を行ってきたものの、年度内の完成には間に合わず、2か月程度工事期間を延長して機器の設置を行い、6月にオープンする見通しである。</p>
渡辺委員	<p>営業拠点県内移転支援事業に係る事業者からの相談状況はどうか。</p>
<p>中小企業振興課長</p>	<p>自己倒産した株式会社大沼のテナント数は、ハローワークから78社と公表されており、県では、倒産の直後からいろいろ相談を受け付けてきた。テナントでは、移転先について、各社とも慎重に不動産の選定をしているところである。その中、山形市内に出店したいと具体的な意向を持っているテナントが13件、その他、鋭意検討を進めているテナントが十数件ある。</p>
森谷副委員長	<p>出店の検討について把握していない残りのテナントの状況はどうか。</p>
<p>中小企業振興課長</p>	<p>いわゆるチェーン店のテナントなど、県内に複数の店舗がある場合、大沼分のテナントは一旦閉じるという意思表示をしているところや対応はこれから考えるというところもある。</p>
森谷副委員長	<p>営業拠点県内移転支援事業の支援内容はどうか。</p>
<p>中小企業振興課長</p>	<p>主にテナントの主に引越しにかかる費用に対し、補助対象経費を50万円と見込み、2分の1の25万円を県費から支出する。予算としては20件の補助を想定し、総額500万円の予算を計上している。</p>

発 言 者	発 言 要 旨
森谷副委員長	今回の大型倒産を機に、今後、県の支援の基準や考え方を検討してほしい。